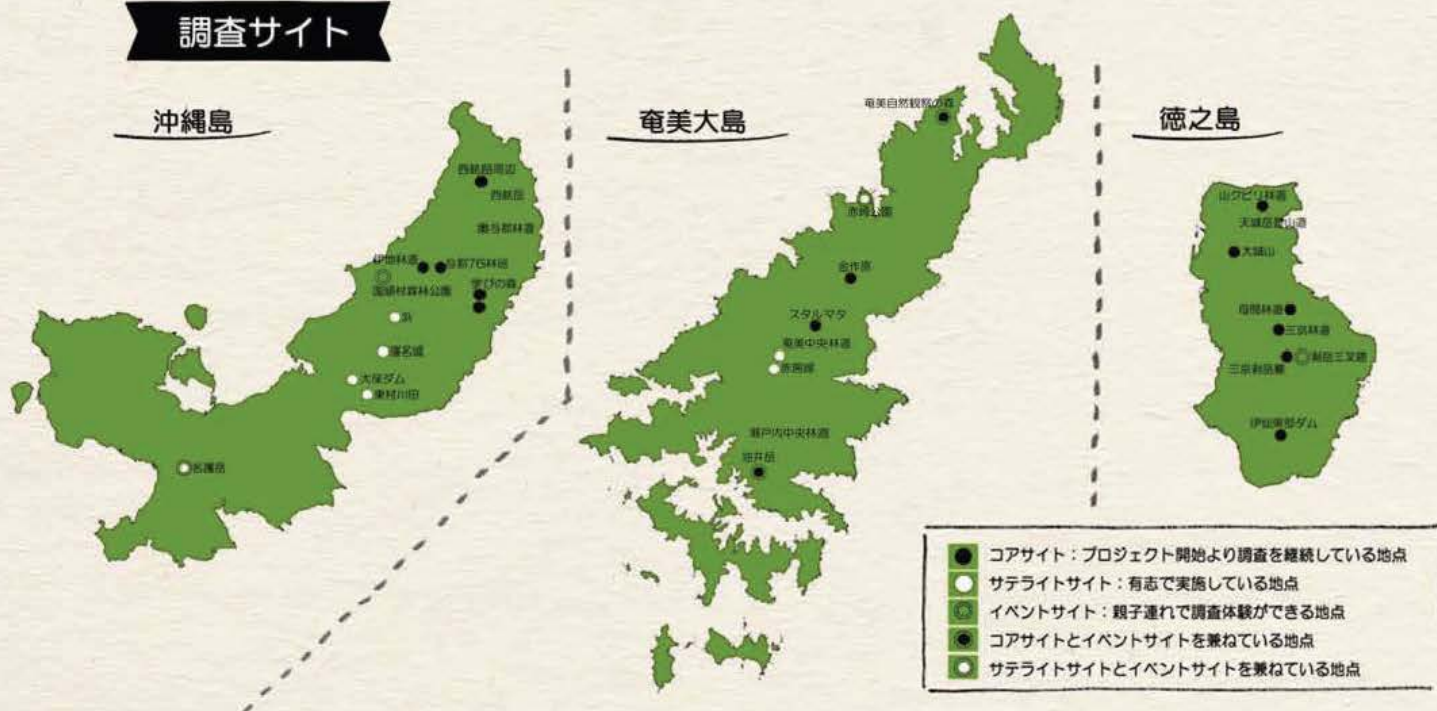


中琉球ドングリ豊凶モニタリング調査について

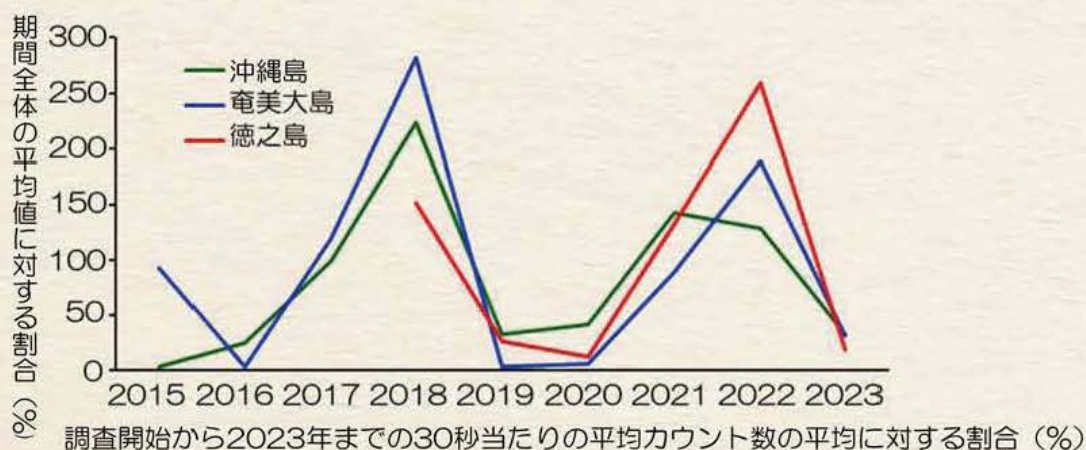
世界自然遺産に登録された中琉球の奄美大島・徳之島・沖縄島でドングリ調査隊を結成し、秋の実りを調査しています。中琉球の亜熱帯林に多いイタシイ（スタジイ）のドングリは、森に暮らす多くの生きものたちの重要な食糧となっています。しかし、ドングリは年によって豊作や凶作といった生産量に大きな変動があり、中琉球にすむ生きものの行動や繁殖に影響を及ぼす要因と考えられています。中琉球で暮らす生きものの保全のためには、中琉球のドングリの生産量を把握することが必要だと考え、ドングリの調査を実施しています。

調査サイト



2023年までの秋の調査結果

2023年秋の実りは、中琉球3島ともに、凶作傾向でした。2021年、2022年と連続で豊作が続いた後の凶作年に動物の暮らしや人とのかわりにどのような変化が起こるのでしょうか。



地域によって、標本木のサイズや見やすさが異なるため、それぞれの地域の実りの平均値を基に標準化した図です。

表.30秒あたりのドングリカウント数の平均値と調査期間全体の平均値

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	平均
沖縄島	0.3	1.9	7.7	17.3	2.6	3.2	11.0	10.0	2.5	6.3
奄美大島	16.4	0.5	21.3	50.1	0.5	1.0	15.7	33.6	5.6	16.1
徳之島	-	-	-	41.2	7.1	3.2	36.1	70.3	5.1	27.2

